



# 新年を迎えて

代表取締役社長 野澤 学

新年あけましておめでとうございます。

「THE CHEMICAL TIMES」の読者の皆様におかれましてはつつがなく良い新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年のリオデジャネイロ五輪では、日本は史上最多の41個のメダルを獲得しました。特に陸上男子400メートルリレーの銀メダルの快挙には驚きました。その勝因として、バトンリレーの効率と精度をとことん突き詰めて、個々の実力を存分に引き出したことがあげられます。日本が得意とするチームワークの勝利で日本の強さの“源泉”になっていると感じました。

さらに、秋には東京工業大学栄誉教授の大隅良典先生がノーベル生理学医学賞を受賞されました。受賞に対して研究をサポートする試薬メーカーの立場から心より祝福申し上げたいと思います。大隅先生はメディアのインタビューにおいて、『基礎研究の大切さ』を何度も訴えられていました。最近アカデミア等における研究は、早い段階で企業と協力し即座に産業応用に進んで行く研究方式も増えています。国際競争に勝つメソッドとして効率的ですが、科学技術創造立国を目指す

日本においては、アカデミアの研究者の自由な発想による探究心からの研究の源泉を枯渇させてはならない、との未来へのメッセージに思えました。多くの基礎研究の源泉は濾過され、多様な成果として安定した知的資源となり、それが日本のモノづくりの“源泉”となる様に、私ども試薬メーカーとしても期待に応えられるモノづくりを目指して鋭意努力して参りたいと思います。

さて、本誌は1950年の創刊以来、今号で243号となりました。昨年1月発行の239号より発行号毎に特集テーマを定めるなど大幅な刷新を行い、読者の皆様により興味を持って読んでいただけるようさまざまな見直しを行いました。当社のホームページには本誌のバックナンバーを第1号から掲載しており、1950年当時の研究成果や科学の発展に伴って試薬の品揃えや規格の変遷を感じ取る事が出来、感慨深いものがあります。今後も本誌のより一層の充実を図って参りますので、相変わらぬご指導、ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

この一年が皆様にとって光輝に満ちた幸多い年であります様に祈念しております。